

Reborn-Art Festival

地方と都市の循環

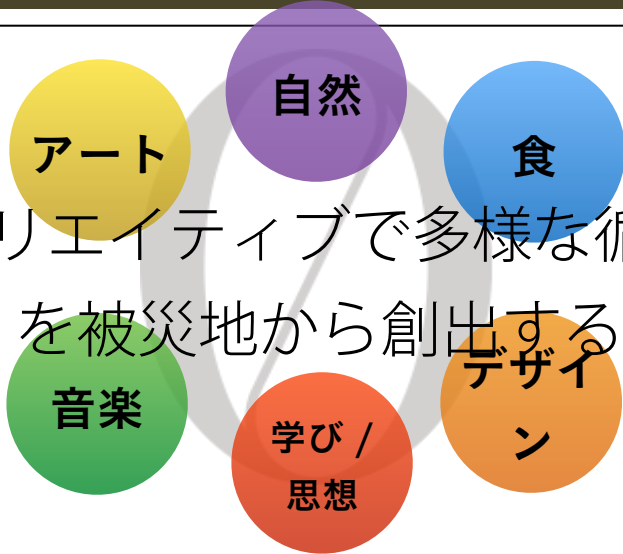
伝統と新しさの循環

若者とお年寄りの循環

生命力の循環

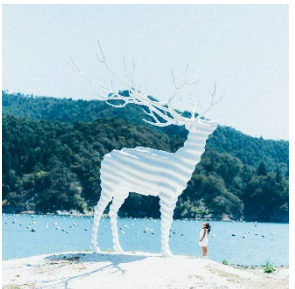
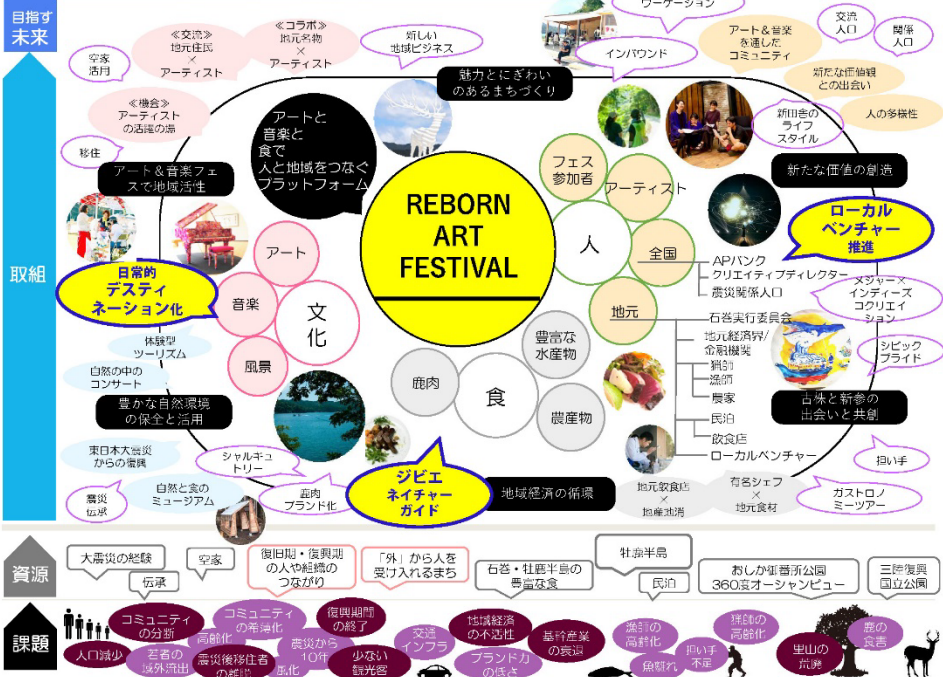
自然と人の循環

被災地と支援者の循環



クリエイティブで多様な循環
を被災地から創出する

目指す未来
ワクワクする循環を増やす。挑戦できるまち、石巻。



<https://www.reborn-art-fes.jp/>

2021年度の取り組み

①持続可能な食の在り方を考えるシンポジウムの開催



②リボンアートフェスティバルを核とした石巻・牡鹿半島の日常的デスティネーション化



③地域の資源（食材・加工事業者など）を活かした商品開発



今村正輝さん

震災ボランティアから石巻に移住。
仲間と手づくりで四季彩食いまむら
を開店。

RAF2021-22の前期では地元料理人として食ディレクターを務める。
船上で漁を手伝うなど生産者とも交流し、その際に採れたものはフェアな値段で仕入れている。

定置網の網の目は細かくて、小さい魚も沢山引っかかっちゃう。でもそうした魚は値段がつかないから海に捨てるんだけど網に引っかかったのをブチブチってちぎって捨てるんですよ。そうした状況何とかならないのかなって。

地元の料理人が中心になり、生産者や外部の食のクリエイターと学び合い、石巻が食の街となるよう行動を起こす。

リボンアート・フードセッションと未利用魚を活用した商品開発

震災当時147人だったのが15人まで減った牡鹿半島桃浦地区。
交流人口・関係人口を増やすことで持続可能な賑わいの創出をめざす。

もものうらビレッジを中心としたサステナブルツーリズム

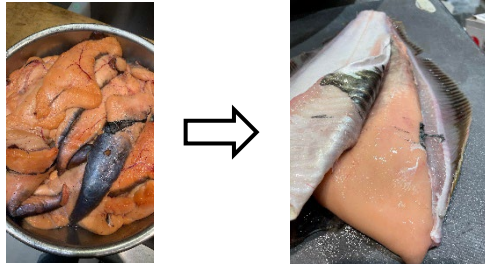
またこの桃浦にたくさんの明るい声
が戻ってきてほしい。
最初は外の人が訪れてくれればいい
んだ。

甲谷強さん

牡鹿半島桃浦地区の前区長。
御年93歳にして現役の漁師。
かつて賑わっていた桃浦地区に再び
人が訪れ、住みだすことを強く願う。

今年度の取り組み

リボンアート・フードセッションと未利用魚を活用した商品開発



通常だと血が回ってしまう卵巣だが、神経締めなど適切な処理をすることできれいで美味しい状態に。

自ら定置網の船に乗り、安い時にはkg10円のソウハチガレイをkg1,000円で引き取り、卵巣をカラスミに。

ソウハチガレイのカラスミを1つのアイコンに、未利用漁を活用する会社を設立し、その利益を地域の食の価値を高める活動に投資したい。

今年度の具体的な取り組みとしては…

- 未利用漁カレンダーの制作
- はまさいさい（RAFで設けた食堂施設）をRAF2022本祭期間中、フードセッションのアンテナショップとして運営
- 持続可能な食の取り組みや現場を体験する「フードアドベンチャー」の実施
- 会社設立を視野にプロデュース準備室を運営
- 地域資源を活かした商品開発
- 学び合いの場の創出（トークイベントなど）



未利用資源の一つ、イシガニ

今年度の取り組み

もものうらビレッジを拠点としたサステナブルツーリズムの環境整備



2017年、「みんなで少しずつ作っていく」宿泊研修施設として誕生したもものうらビレッジ。この夏、観光庁の補助事業を活用し、オフグリッド体験のできる新宿泊棟やトイレ環境などを整備。

もものうらビレッジを拠点として、住民やローカルベンチャーを巻き込みながら牡鹿半島をサステナブルツーリズムを推進する。

今年度の具体的な取り組みとしては…

- もものうらビレッジを拠点としたサステナブルツーリズムの魅力を紹介するWEB制作。
- 地域住民やローカルベンチャーとともにサステナブルツーリズムのコンテンツを開発
- ユーザー、旅行商品に関するターゲット分析・マーケティング
- ファムトリップの実施

コンセプト（検討中）

食べるよろこび
いのちへの感謝
つながるいとなみ

利他と流動性

Altruism and Fluidity

REBORN
ART
FESTIVAL
2021-22

Reborn-Art Festival 2021-22 [後期]

テーマ：— 利他と流動性 —

【会期】2022年8月20日（土）～10月2日（日）

※休祭日：8月24日（水）、9月7日（水）、9月14日（水）

【会場】宮城県 石巻市街地（石巻中心市街地、復興祈念公園周辺、渡波）、
牡鹿半島（桃浦・荻浜、鮎川）